

和名：コドリングア

学名：*Cydia pomonella* (Linnaeus)

英名：codling moth

分布

中華人民共和国、西アジア、ヨーロッパ、アフリカ、北アメリカ、南アメリカ、オーストラリア、ニュージーランド等



図1 コドリング成虫

寄主植物

クルミ核子、リンゴ、ナシ、アンズ、モモ等の生果実

形態

成虫は体長約7～9mm、開張時は14～22mmの小型の蛾である。前後翅とも地色は褐色で翅表の斑紋は個体変異が多い。蛹は8～10mm、紡錘形で褐色。幼虫はふ化直後で体長約1.5mm、頭部は光沢のある黒色、他の部分は乳白色で全体に黒色の小突起がある。老熟幼虫は頭部、硬皮板、肛門板が褐色で他の部分は赤又は黄色がかった白色である。終齢幼虫の体長は20mm前後。成虫、幼虫とも形態はナシヒメシンクイやリンゴコシンクイに類似するが、これらより大型である。



図2 コドリング幼虫

生態

年間発生回数は、アメリカ大陸北部で年1回、中部で年2回、南部で3～4回である。越冬は、樹皮下や地上の落葉中などに作ったまゆの中で、老熟幼虫の状態で行う。春に蛹になり、2～3週間後に羽化する。産卵は、受粉直後の未熟果やその近くの葉面に行われる。卵期間は5～10日間。ふ化した幼虫は果頂部の萼窪や葉と果実のふれ合う部分から果実内部に食入するが、第2世代以後は果実が肥大して食入しやすくなるので果実の横腹から食入するものが多い。食入後は種子を含む果芯部を好んで食害し、生育とともに侵入孔から褐色の虫糞を外に押し出す。1果中の幼虫は共食いの性質があるため普通1頭であるが、まれに2頭存在する。幼虫期間は3～4週間である。コドリン (Codling) というのは、「未熟な小さなリンゴ」という意味である。我が国に既存する類似害虫のナシヒメシンクイは、形態、生態、加害様式ともコドリングによく似ているが、1果中の幼虫数が多く、通常1～10頭存在する。また、リンゴコシンクイの場合は食害部位が比較的浅いところという特徴がある。

被害

幼虫が果実内部を食害する。年2回以上発生する地域で特に被害が大きく、無防除のりんご園地では65～100%の果実に被害を及ぼす場合もある。